

目呂二 と すの子 の レトロな おみやげコレクション展



阿波おどり

今回ご紹介するのは、芸術家で目利きの目呂二夫婦が、旅先で興をそそられ手に入れたご当地人形や、ふたりの好みをよく知る知人からのおみやげなど、すの子の宝箱に大切にしまわれていた、小さな人形コレクションです。



スチュワーデスこけし

工芸品ほどの完成度もなく、郷土玩具というほどの由緒ありませんが、どれもみな独創的でお茶目で饒舌、けなげな商売っ気もほほえましい、どこか昭和の香りが漂う懐かしい人形たちです。



まゆだまこぼし

思わず笑ってしまうほどに小さく、愛らしい人形たちのおしゃべりとお国自慢に、耳を傾けに来ませんか？

《入場無料》

とき： 2025年8月1日（金）～ 8月17日（日）
10:00～16:00 （5日（火）と12日（火）は**お休み**）

ところ： **ギャラリー 小灯 kotoboshi**

軽井沢町追分 1165（信濃追分 浅間神社の西隣）
お車でお越しの際は、浅間神社向かいの町営駐車場をご利用ください。

ガラクタ・マーケット 同時開催！
古いモノ ★ 古本 ★ いろいろ販売
売り切れ御免！

企画・主催 河村目呂二ライブラリィ©



河村 目呂二（かわむら めろじ）

1886年（明治19年）岐阜県揖斐郡宮地村（現 池田町）生まれ。本名「宏（ひろし）」、別号「猫珍奇林（みょうちきりん）」「龍興（りゅうこう）」など多数。

「目呂二」の号は、音楽の「メロディ」と、憧れていた「竹久夢二」の名を語呂合わせしたものといわれている。1914年（大正3年）東京美術学校（現 東京藝術大学）彫塑科研究課程を修了。

大正ロマンから昭和モダンに沸く東京で、彫刻家・人形作家・グラフィックデザイナー・挿画家・エッセイストとして多彩な活動を繰り広げた。

稀代の愛猫家、猫グッズや招き猫の蒐集家としても知られ、自らも日本初の創作招き猫『MONEY-KEY 猫』をはじめ、芸者まねきとして知られる『縁福猫』、戦後の世界中に笑いを届ける使徒猫『Laughter』などの人形作品を生み出した。1945年（昭和20年）軽井沢町追分に移り住んだ後、晴耕雨毫の日々を過ごしつつ、1959年（昭和34年）に73歳で没するまで、意欲的に創作に取り組んだ。



河村 すの子

1900年（明治33年）東京に生まれたのち、すぐに長野県下伊奈郡宮田村の親戚の養女となる。本名「はま子」。女子美術学校（現 女子美術大学）洋画科卒業後にレート化粧料図案部に入社。ここで嘱託デザイナーだった目呂二と出会い、意気投合。1920年（大正9年）に結婚。生涯にわたり目呂二の芸術活動のよきパートナーでありながら、自らも女流作家として、随筆や『変り雛人形』、『じゃず人形』等の創作人形を発表し、当時の“モガ”の代表格として、しばしば新聞や雑誌に取り上げられた。目呂二の没後も軽井沢でその遺品と思い出を大切に守りながら、1992年（平成4年）に93歳の長寿をまっとうした。